

外観



トイレの設計には工学部大学院生が携わり、男性・女性・車いす使用者などの方にも使いやすいトイレとするためにプランを何度も練り直した。結果、仕様や使い勝手すべてに完成度の高い仕上がりとなった。

女性トイレ 洗面・パウダーコーナー



ファサードの曲面とあわせた丸型のハーフベッセル洗面器を採用。化粧直しや歯磨きなどゆっくり身支度できるように、ゆったりとした洗面・パウダーコーナーを実現。全身が確認できる全身鏡も通路に設置。

小便器・大便器コーナー



小便器は、シンプルなデザインと節水性能を両立した自動洗浄小便器、大便器には女性トイレ同様にフラッシュタンク便器を採用。天井部からの間接照明の光により、リラックスできる空間となっている。

トイレ入口



トイレは、建物の入口に位置するため、工学部の顔となる思いを込めてデザイン。工学部のかたいイメージを払拭し、やわらかい雰囲気を出し出すよう、ファサードやトイレサインに曲面を取り入れている。

女性トイレ 大便器ブース



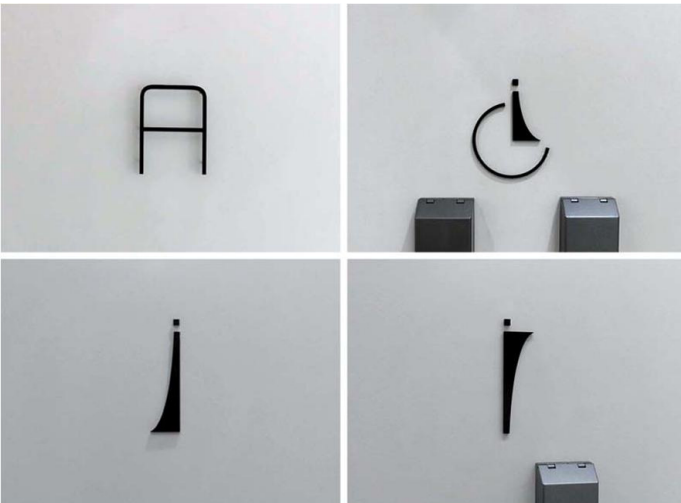
コンパクトな形状と節水性に優れたフラッシュタンク便器に電源不要のエコリコンを採用。カウンターは、荷物が置きやすいよう一部の奥行を増やしている。取り替え用トイレ紙の収納スペースも設置。

多機能トイレ



車いす使用者の声を反映し、必要スペースを検証・確保した多機能トイレ。オストメイト配慮として、パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを採用。

トイレサイン



サインはファサードの曲面とあわせて、学生の手によるデザイン。素材にステンレスを用い、現在の硬質なイメージに、未来に向け醸成したいやわらかなイメージを融合させた意匠となっている。

改修前

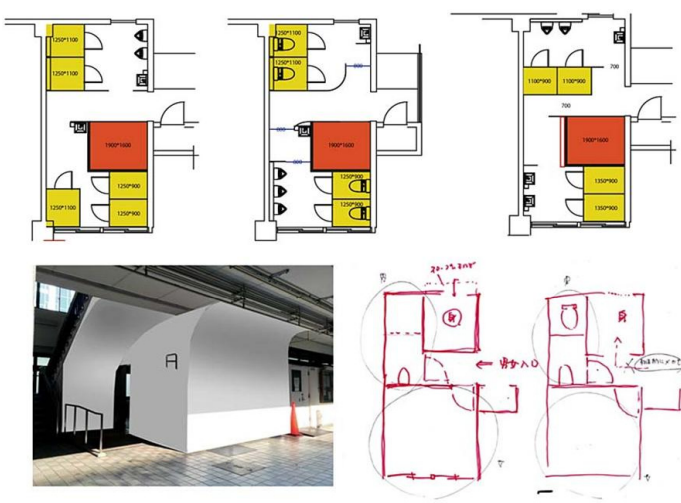


90度曲折のアプローチが、電動車いすでは特に使いづらかった。暗いイメージの入口、不快な匂い、大便器ブースの段差・狭さ、洗面器スペースの狭さ、荷物の置き場所がないことなどさまざまな問題があった。

建築概要

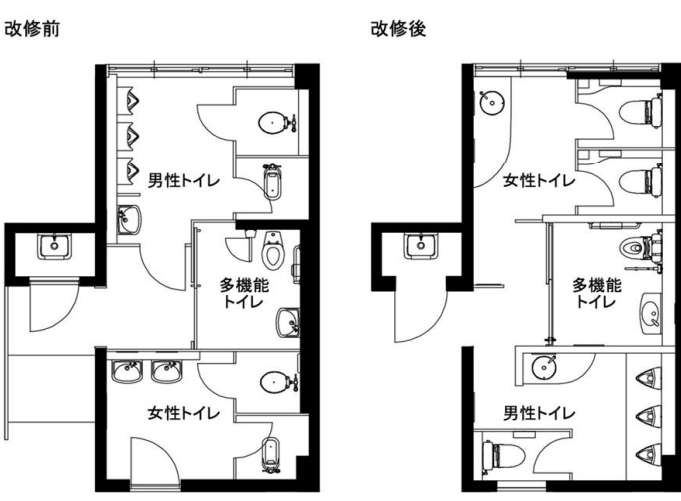
名 称	大阪市立大学 工学部A棟
所 在 地	大阪市住吉区杉本3-3-138
施 主	公立大学法人 大阪市立大学
設 計	大阪市立大学 工学部大学院生 大阪市立大学 管理課 〈建築〉株式会社メガ建築設計事務所 〈設備〉遥設備設計
施 工	〈建築〉中之島建設有限会社 〈電気〉株式会社庫本電気工事 〈機械〉有限会社テクニカルワークス
竣 工 年 月	(改修)2017年4月

打ち合わせ資料（抜粋）



計画から竣工までほぼ一年を費やし、2週に1回程度学生が集まりプロジェクトを進めた。図面・CG・パースの作成や内装材や器具の選定、照明計画までもが進められた。

トイレ図面



多機能トイレに、女性が入りにくかったことから、男性・女性・多機能トイレの出入口を改善。悪臭こもりや閉塞感をなくするために、男女トイレはともに外部から内部が見えない視線配慮を施し、ドアレスとしている。

水まわりの特長

＜改修の経緯＞

大阪市立大学は、1880年創設の大阪商業講習所を源流とする、日本で初めて市立の大学。公立大学として最も大きい規模を誇る。大学では学内施設改修のプロジェクトの一環として、学内に設置されている自動販売機の収益を活用し、第1弾として生活科学棟のトイレ改修を実施。今回、第2弾となる工学部A棟のトイレ改修が実施された。改修計画は、工学部の大学院生主体で実施され、2016年3月から、ゼミの教授・施設整備課・設計事務所の担当者と打ち合わせを重ね、具体的にプランを検討。さらに、計画に際しては、実際にトイレ利用者である在学生や職員、車いす使用者にもヒアリングを実施し、学内トイレほか公共トイレの現場・現状も参考にされた。

＜トイレの特長＞

工学部という硬質なイメージと建物の角ばった印象に対して、やわらかく明るい雰囲気を醸し出す工夫として、トイレ内外の天井に曲面を用い、内装は清潔感と広さを感じる白に統一。アクセントにスタイリッシュなステンレス素材を採用した。また、多機能トイレはアプローチ性を重視、男女ともに入りやすい場所に配置。設置器具の検討にあたっては、TOTOショールームを見学。「最低限の使いやすさは何か」を追求し、選定、最新設備を採用した。